

国際原子力エネルギー協力フレームワーク（IFNEC） 第8回執行委員会（EC）会合等の結果概要について

平成 29 年 11 月 21 日
内 閣 府
原子力政策担当室

平成 29 年 11 月 6～9 日、IFNEC 第 8 回執行委員会会合ほか関連会合が、フランスのパリにおいて開催された。日本から進藤内閣府原子力政策担当室次長が出席（11 月 7 日-9 日）、結果概要を以下のとおり報告する。

1. 開催日程・場所

- (1) 平成 29 年 11 月 6 日：IFNEC 基盤整備作業部会・燃料供給サービス作業部会
- (2) 平成 29 年 11 月 7 日：IFNEC アドホック需給国関係会合
 標題：「グローバル・サプライチェーンとローカライゼーション」について
- (3) 平成 29 年 11 月 8 日午前：IFNEC アドホック需給国関係会合
 標題：同上
- (4) 平成 29 年 11 月 8 日午後：運営グループ（SG）会合
- (5) 平成 29 年 11 月 9 日：IFNEC 執行委員会会合
 全会合：UIC コンファランス・センターにおいて開催

2. 主要参加国・機関

(1) IFNEC 執行委員会会合

- ① 正式参加国 18 か国、オブザーバー 2 か国、国際機関 3 機関。
- ② 主要国代表者
 - ・フランス（EC 議長国）：レイザー・スーリ 原子力・代替エネルギー庁（CEA）国際局局長（議長国挨拶の後 IEA（国際エネルギー機関）会合への出席のため退席、その後同局ミュセット氏が議事進行を代行）
 - ・アルゼンチン（SG 議長国）：ガダノ エネルギー鉱業省次官（原子力担当）
 - ・日本（SG 副議長国）：進藤 内閣府原子力政策担当室次長
 - ・中国（SG 副議長国）：リョウ・バオフ 国家能源総局副局長

(2) 関連会合

① IFNEC 運営委員会会合

執行委員会への報告・提案の事前審議会合としての位置付けで、執行委員会参加者とほぼ同様のメンバーが参加した。

- ② 基盤整備作業部会、燃料供給サービス作業部会、アドホック需給国関係会合
 各国原子力行政機関・研究機関、国際機関などが出席した。

3. 会合結果

(1) 全般

① アドホックグループ会合

日本が創設時より尽力したアドホック需給国関係会合が本年発動し、規制当局等従来にない多彩な参加者を得て、活発な議論がなされた。同会合が IFNEC 会合全般を

刺激して成功裏に終わったことから、同グループの今後1年の任期延長が認められた。

② 次期 EC 会合の開催地

次期 EC 会合を日本で開催されることが認められた。

(2) IFNEC 執行委員会会合

① 議長国からの歓迎挨拶

レイザー・スーリ 原子力・代替エネルギー庁 (GEA) 国際局局長から、化石燃料による地球温暖化防止のため原子力は重要な位置を占め、その推進に向けて活動する IFNEC には価値がある旨の表明があった。

② 出席国による表明

出席国・国際機関による各国の現状説明があり、日本は進藤審議官より、我が国の原子力事情、原子力政策の進展、IFNEC に対する貢献及び期待等について、意見表明を行った。

③ 作業部会からの報告

基盤整備作業部会 (11 月 6 日午前開催) のブカート、マチソン両共同議長及び燃料供給サービス作業部会 (11 月 6 日午後開催) のタイソン、ザガー両共同議長より両部会の活動状況、今後の活動・展望について報告があった。

基盤整備作業部会からは、特に本年、IAEA 等の関係機関と協力しつつ、ステークホルダー等も交えた「廃棄物」に関するワークショップや事故発生国における廃炉措置等多彩なワークショップを行った旨、発言があった。

また、燃料供給サービス作業部会からは、特に IAEA、OECD 等部外機関、基盤整備部会、アドホックグループ等部内機関等の同部会に対する謝辞が述べられ、今後とも IAEA 等関係機関と連携して重複課題を避けつつ多方面の活動を行う旨、発言があった。

④ アドホック需給国関係会合 (11 月 7、8 日開催) 報告：進藤共同議長

昨秋の執行委員会で発足が認められて以降、(a) TOR (Terms of Reference) の作成、(b) 「安全、プロジェクト形成、ファイナンス、パブリックアクセプタンス」の 4 領域の設定及び各領域で検討すべき主要課題 (キークエスション) の検討を進める一方、(c) 4 月の準備会合において、「グローバル・サプライチェーンとローカライゼーション」を当面の検討テーマと決定して、6 月の運営委員会会合開催時にあわせた第一回アドホック会合では 5 人の専門家によるパネルディスカッションを開催した。また 11 月の執行委員会会合時にあわせた第二回アドホック会合では 19 人の専門家によるパネルディスカッションを開催したところ、需要国・供給国・規制当局・供給企業・需要企業等多彩な参加を得て、需要国・供給国の異なる立場から見たサプライチェーンという新たな視点を得て、従前の課題においては見だし得なかった新鮮な議論をもたらした旨の報告があった。

⑤ その他

- ・事務局からの報告：本年の IFNEC 会合の結果報告・来年の活動予定、予算執行状況について報告があった。
- ・アドホック需給国関係会合：アドホック需給国関係会合を新たに一年間継続することが決定された。
- ・次期開催：年末に予算が確定すれば、日本が来年秋にホスト国になる旨、表明があった。
- ・共同声明が最終審議され、採択された。

(3) 関連会合

① 運営グループ会合

- ・ 各国代表挨拶：会議開催に当たり、各国出席者から自己紹介があった。
- ・ 運営グループ議長からの報告：(a) IAEA 総会のサイドイベントとして IFNEC の活動紹介を行ったこと、(b) 前運営グループ議長マクギネス氏から現グループ議長ガダノ氏への議長交代と移行期の終了、(c) 共同声明案の文章表現等細部調整、(d) 次期 IFNEC 開催予定地を日本にすること、(e) アドホック需給国関係会合については、1 年延期して常設化の判断を待つとの提案があった。
- ・ IFNEC 事務局からの報告：IFNEC の活動状況・予算執行状況（2016 年 10 月から 2017 年 10 月への繰越予算）について説明があった。

② アドホック需給国関係会合

11 月 7 日、8 日午前、進藤審議官を議長（グロッシ共同議長は欠席）として開催。会合冒頭、NEA マグウッド氏より IFNEC の日頃の活動に謝意を示すとともに、アドホック会合が高品質のグローバルスタンダードを形成する上で重要である旨、発言があった。

・ 11 月 7 日終日

議長から参加者・事務局等に対する謝辞があり、アドホック需給国関係会合の設立経緯・目的等の説明の後、午前は、「国際的視点からのグローバル・サプライチェーンとローカライゼーションにおける主要課題」について WNA, IAEA, NEA からプレゼンテーションがあり、その後、「ローカライゼーションに関わる主要課題」についての紹介が原発需要国 8 か国（計画中 3 か国及び導入済 5 か国）からあった。

需要国の多くがローカライゼーションの持つ雇用・経済効果への期待を表明する一方、参加者の中からは、ローカライゼーションはコストが掛かるがそれだけの見返りがあるのかという質問があり、長期的に見れば安全や品質向上等の面で利する旨の回答もあって、日頃接しない意見があって参加者の関心を惹くセッションとなった。また午後は、「グローバル・サプライチェーンとローカライゼーション」に関わる 6 供給企業の経験について、プレゼンテーションがあり、その後質疑応答で、供給企業は安全確保やコストを重視し、ローカライゼーションに関わる原発需要国との間の問題意識の違いも浮き彫りになる意義あるパネルとなった。

・ 11 月 8 日午前

進藤議長より前日の概要及び当日の議事進行の説明後、前半は 6 月の SG 会合での話題を反映して、規制当局 4 機関により、需給国側の品質保証、安全保証に関わる法的・制度的説明、経験談等があり、その後、質疑応答となった。従来の IFNEC 会合では規制当局自体の参加が稀なこともあってか、参加者の関心をひき、特に原発需要国からは活発で切実な質問が出され、後半のその他の質疑応答の時間も熱のこもった議論がなされた。

4. その他

- (1) SG 議長ガダノ氏より、本年の IFNEC 会合の取組と今後の展望について報告があり、特に 2018 年にアルゼンチンで開催される G20 地域首脳会合で原子力の位置付けについて議論すべく、来年 6 月頃会議を開催することも念頭に、今後 1 か月くらいで具体的な提案をまとめ各国と相談したい旨、発言があった。これに呼応してカナダから、現在クリーンエネルギー閣僚会合（CEM）において日米加が共同提案中の原子力に係るイニシアチブのキックオフ会合を 5 月にコペンハーゲンで予定しており、互いに

連携してはどうかとの提案があった。今後前向きな調整が進むことが期待される。

- (2) 米国から、エネルギー省として、原子力に関わる若手の啓発のため、ミレニアル・ニュークリア・コーカスというグループを創設し、その活動を支持し、若手人材育成に取り組んでいる旨、発言があった。関連して、NEA のマグウッド氏より、日本の女性研究者育成支援の取組について、紹介しながら、ダイバーシティの重要性が強調された。両人材育成の紹介については、説明の後、それぞれビデオによる紹介活動もあった。

参考URL

- ・ ミレニアル・ニュークリア・コーカス
<https://energy.gov/articles/secretary-energy-rick-perry-met-young-leaders-nuclear-community-millennial-nuclear-caucus>
- ・ 日本の女性研究者育成支援
<http://www.qst.go.jp/information/itemid047-002830.html>

5. 参考事項

(1) IFNEC 執行委員会会合の出席国

- ① メンバー国：アルゼンチン（SG 議長国）、日本（SG 副議長国）、中国（SG 副議長国）フランス（SG 副議長国）、アメリカ合衆国（前 SG 議長国）、アラブ首長国連邦、アルメニア共和国、イギリス、オーストラリア、オマーン、カナダ、韓国、セネガル、ドイツ、ポーランド、ヨルダン、ルーマニア、ロシア連邦（計 18 国）
- ② オブザーバー国：ウガンダ、エジプト
- ③ 国際機関：Euratom（欧州原子力共同体）、OECD/NEA（経済協力開発機構／原子力機関）、IAEA（国際原子力機関）

(2) 添付資料

- 添付 1：第 8 回執行委員会共同声明（英文）
- 添付 2：第 8 回執行委員会共同声明（仮訳）

The International Framework for Nuclear Energy Cooperation
Joint Statement
8th Executive Committee Meeting
Paris, France
9 November 2017

The Executive Committee of the International Framework for Nuclear Energy Cooperation (IFNEC) held its annual meeting on 9 November 2017, in Paris, France. Senior representatives from 21 Participant countries, 4 Observer countries and 4 observer organizations met to discuss IFNEC-related matters and expressed to the Republic of France their sincere appreciation for graciously chairing this year's Executive Committee Meeting. They also expressed their appreciation to the NEA for hosting the meetings of the IFNEC Steering Group, the Infrastructure Development Working Group (IDWG), Reliable Nuclear Fuel Services Working Group (RNFSWG) and the IFNEC "Global Supply Chain and Localization, Issues and Opportunities: A Conference on the Customer Dialogue" on 7-8 November 2017.

The mission of IFNEC is to provide a forum for cooperation among participating states to explore mutually beneficial approaches to ensure the use of nuclear energy for peaceful purposes proceeds in a manner that is efficient and meets the highest standards of safety, security and non-proliferation. Participating states would not give up any rights and voluntarily engage to share the effort and gain the benefits of economical, peaceful nuclear energy.

The Executive Committee recognizes the key role nuclear energy is playing for many countries throughout the world as a reliable, resilient, clean, and long-term source of electricity production, and the potential it has to increase its contribution in this regard based on nuclear power plant and fuel cycle technology improvements. The Executive Committee also noted the challenges to improve cost efficiency of using nuclear energy in an increasingly competitive market.

The Executive Committee encourages 34 Participant Countries comprising IFNEC, as well as 31 Observer Countries and 4 International Observer Organizations (IAEA, OECD/NEA, Euratom, Generation IV International Forum) to continue working together in mutually beneficial ways including information sharing, lessons-learned, and synergistic non-duplicative ways to work with the IAEA and OECD/NEA.

The Executive Committee supports IFNEC's current areas of focus, including the relationship between nuclear supplier and customer countries; the financing of nuclear power projects; optimizing electricity market structures; establishing the necessary infrastructure including the requisite skilled workforce; global supply chain issues; broadening the choice of reactor designs to include for instance small modular reactors; further study of multinational spent nuclear fuel disposal solutions and other possibilities; and enhancing stakeholder engagement to collectively and more effectively address common global nuclear supplier and customer challenges.

The Executive Committee takes positive note of the following recent activities organized or co-hosted by IFNEC, intended to address the above-described challenges and opportunities:

- The Resources and Gaps Workshop: Industry view of nuclear security/ Stakeholder Engagement for Radioactive Waste Management organized by the IDWG and hosted by Romania, May 2017;

as well as the following meetings hosted by the NEA in Paris, France:

- The IDWG, RNFSWG, Ad Hoc Nuclear Supplier and Customer Countries Engagement Group meetings (NSCCEG) in June 2017;

- The Steering Group meeting in June, 2017;
- The IDWG and RNFSWG meetings in November 2017;
- The Global Supply Chain and Localization, Issues and Opportunities: A Conference on the Customer Dialogue, organized by the Ad Hoc Group in November 2017;
- And the Steering Group meeting in November 2017.

The Executive Committee notes with pleasure the successful transition of the Steering Group Chair. After many years chairing the Steering Group, Mr. Edward McGinnis passed this function to Mr. Julián Gadano, who will chair the Steering Group for the coming years and offer support to the activities carried out by the Working Groups. The Executive Committee recognizes the valuable work done by Mr. Edward McGinnis and nominates him as Chair Emeritus of the Steering Group.

The Executive Committee recognizes the work of the newly-created Ad Hoc Group, NSCCEG, which started its activities after the last Executive Committee, held in Buenos Aires, October 2016. The Ad Hoc Group implemented an intensive program, focusing on the relation between nuclear supplier and customer countries, possible areas of cooperation and interaction, and opportunities for offering its services to improve the relationship between supplier and customer countries. The NSCCEG organized the event “Global Supply Chain and Localization, Issues and Opportunities: A Conference on the Customer Dialogue” in Paris, 7-8 November 2017, which provided IFNEC with a comprehensive understanding of supplier and customer relationships. The Executive Committee notes the success of the conference and the interest expressed by several Participant countries in continuing to address the issues described in the NSCCEG’s Terms of Reference.

The Executive Committee recognizes the positive work of the Steering Group Chair and the Co-chairs of the RNFSWG, IDWG and Ad Hoc Group, all of whom accomplished a broad array of beneficial activities during t h e last period. The Executive Committee commends the Steering Group and Working Groups for their excellent work and expressed its particular appreciation for their accomplishments in addressing issues identified as being of key importance by Participant countries. The Executive Committee is very grateful for support provided by the Nuclear Energy Agency as the Technical Secretariat for IFNEC. In connection with this, the Executive Committee extends its sincere appreciation:

- To the IFNEC Technical Secretariat at the NEA for successfully organizing and hosting the Steering Group and Working Groups meetings in June and November 2017; for preparing the report on the 2016 Annual Survey which reflects the views of the IFNEC Participant countries and identifies future steps and strategies; and to NEA Director-General William D. Magwood, IV, for his personal involvement and efforts supporting and encouraging the work of IFNEC.
- To the Government of Romania and to the IDWG for co-organizing the Resources and Gaps Workshop: Industry view of Nuclear Security/ Stakeholder Engagement for Radioactive Waste Management, in May 2017.
- To Mr. Edward McGinnis for his outstanding guidance since the very beginning of IFNEC.
- To Mr. Alan Brownstein for his leadership and service to the RNFSWG.
- To Mr. Julián Gadano for his agreement to chair the Steering Group and his readiness to bring new ideas to be tackled by IFNEC.
- To the incoming leadership for its willingness to serve: Mr. Sean Tyson as RNFSWG co-Chair, Mr. Hideo Shindo and Mr. Rafael Grossi as co-Chairs of the Ad Hoc Nuclear Supplier

and Customer Engagement Group.

- To the Participant countries that have provided voluntary contributions to allow the IFNEC Technical Secretariat to operate successfully and provide to Working Group co-chairs multi-faceted analysis, support, and publication of findings to the extent funding is available. To those Participant countries and observer countries and organizations that have provided robust participation in IFNEC activities and in-kind contributions, such as hosting Executive Committee and other meetings; volunteering experts into leadership or participant roles; or otherwise providing IFNEC with time and ideas in developing meaningful undertakings.

In particular, the Executive Committee notes with satisfaction the following:

- An effort across the years to address the infrastructure challenges from its roots, and offer solutions to nuclear newcomer countries.
- The continued effort to explore the possibility and technicalities of a multinational repository for final disposition of medium and high level radioactive waste.

The Executive Committee indicates its priorities for IFNEC activities and issues the following guidance for the Steering Group and Working Groups to pursue through 2018:

- The Steering Group will coordinate the work to avoid overlapping activities and improve synergies among Working Groups and to strengthen the relationship with other related agencies. To this effect, it will update the “Action Plan” document that describes the Terms of Reference of the Working Groups and the Technical Secretariat and more generally, the governance structure and operating procedures of IFNEC.
- The Executive Committee agrees to renew the mandate of the Ad Hoc Nuclear Supplier and Customer Engagement Group for a second year, with the objective to continue to address the issues listed in the group’s Terms of Reference.
- The Executive Committee recognizes the progress made in the Reliable Nuclear Fuel Services Working Group activity. The Co-chairs of the RNFSWG are directed to continue their focus on the back end of the nuclear fuel cycle to explore cooperative approaches to the management of radioactive waste and spent nuclear fuel that will benefit Participant countries. Furthermore the Executive Committee directs the Group to continue work on the development of the Multinational Repository concept and the Dual track Approach to national back-end programs. RNFSWG is encouraged to consider sponsoring a workshop or conference for 2018 to develop a specific topic of interest.
- The IDWG should continue to address important issues in developing the national infrastructure countries require for safe and secure pursuit of a nuclear energy program, including human resource development and nuclear regulatory development. The Executive Committee recognizes the work done over the past year by the IDWG in the areas of nuclear security, reactor decommissioning, decommissioning and remediation of damaged nuclear facilities, human resource development, stakeholder involvement, small modular reactors, nuclear safety and emergency preparedness and response. The Executive Committee is encouraged to hear of the continued collaboration with the IAEA and in particular, welcomes the co-sponsorship of an international student competition on projects to provide discussion and increase awareness around nuclear science and technology in local communities. The Executive Committee welcomes the intention of the IDWG to hold a meeting which will cover regulatory approaches to new reactor technologies.

- The RNFSWG, IDWG and NSCCEG are urged to continue technical collaboration in their activities with the IAEA and the OECD/NEA, and other organizations as appropriate.
- The Steering Group is urged to take actions to address financing challenges to support IFNEC activities as well as to develop outreach activities for potential new Participant Countries, taking into account the voluntary nature of financial contributions to the secretariat budget.
- The Steering Group, in coordination with the Working Group co-chairs, is encouraged to identify a topic of significant importance to international cooperation on nuclear energy and to plan and conduct a workshop or conference with broad stakeholder interest.

The Executive Committee encourages all IFNEC Participant and Observer countries to participate actively in the IFNEC Steering Group and Working Group meetings scheduled in Q2 2018, as well as in the Executive Committee meeting that Japan offers to host in Q4 2018, subject to budgetary approval.

＜仮訳＞
国際原子力エネルギー協力フレームワーク(IFNEC)
第8回執行委員会会合共同声明
フランス共和国パリ
2017年11月9日

IFNEC の執行委員会は、年次会合を 2017 年 11 月 9 日、フランス共和国のパリにおいて開催した。21 参加国、4 オブザーバー国、4 オブザーバー機関の代表者が、IFNEC に係わる議題を討議するために会し、フランス共和国の議長国としての労に対し深甚なる謝意を表した。また、NEA に対して、IFNEC 運営グループ会合、基盤整備作業部会会合、燃料供給サービス作業部会会合、そして 11 月 7 日－8 日に開催された「グローバル・サプライチェーン：需要国との対話会議」開催の尽力に謝意を表した。

IFNEC の使命は、原子力の平和利用を有効かつ高水準な安全、セキュリティ及び核不拡散に対応した方法で実現するため、参加国が協力して相互に有益なアプローチを追及する場を提供することにある。参加国は自国の権利を損なうことなく、自発的に努力を共にし、経済的に利する原子力の平和的な利用の恩恵を享受する。

執行委員会が認識しているのは、多くの国で原子力が担う重要な役割は、信頼性があり、強靭性があり、クリーンであり、そして電力供給の長期的資源であるということであり、また、この点について、原子力発電所と核燃料サイクル技術の改善により、一層貢献度を増すべ潜在的可能性があるということである。執行委員会は、また、競争の増す市場において原子力利用に係わるコストの削減といった課題にも注目してきた。

執行委員会は、IFNEC を構成する 34 参加国、31 オブザーバー国、そして 4 オブザーバー国際機関(IAEA, OECD/NEA, Euratom, Generation IV International Forum)が、情報を共有し、教訓を活用し、IAEA や OECD/NEA と協力して活動が重複することなく、相乗効果を得られるように、相互に有益な形で継続して協力することを奨励する。

執行委員会は、IFNEC が取り組む現行の活動分野を支持する。すなわち、需給国関係、原子力プロジェクトに係わるファイナンス、電力市場構造の最適化、グローバル・サプライチェーン問題、小型原子炉など設計上の選択肢の拡大、熟練労働力に代表される基盤整備の確立、使用済燃料の多国間処理と他の代わる手段の更なる研究、そして原子力需給国共通の課題に対する包括的かつ効果的な取り組みに関するステークホルダーの係わりを促進する分野である。

執行委員会は、IFNEC が前述の課題に取り組むため、組織され、開催された以下に挙げる活動は特筆すべきものであると認める。

- 2017 年 5 月ルーマニアが主催した「資源及び格差」に関するワークショップ：「核セキュリティに関する企業側からの視点」、「燃料供給サービス部会が運営した放射性廃棄物の管理に対するステークホルダーの係わり」

また、フランスのパリにおいて、NEA 主催による次の会議も同様に特筆すべきものである。

- 2017 年 6 月に開催された基盤整備作業部会、燃料供給サービス作業部会、アドホック需給国関係会合。
-
- 2017 年 6 月開催の運営グループ会合。
- 2017 年 11 月開催の基盤整備作業部会会合、燃料供給サービス部会会合。
- 2017 年 11 月に開催された「グローバル・サプライチェーンとローカライゼーション：需要国との対話会議」。
- 2017 年 11 月開催の運営グループ会合。

執行委員会は運営グループ議長の円滑な指揮移転を評価する。長年同グループ議長を務めたエドワード・マクギネス氏が議長の役割をフリアン・ガダーノ氏に譲り、同議長は今後運営グループの議長を務め、作業部会の活動を支援する。執行委員会はエドワード・マクギネス氏の果たした業績を評価し、同グループの名誉議長として推薦する。

執行委員会は、新しく創設されたアドホック需給国関係グループの活動を評価する。同グループは 2016 年 10 月にブエノスアイレスで開催された執行委員会の後、活動を開始した。アドホック・グループは、需給国関係、協力と連携の可能な分野、そして需給国関係の改善に資する機会提供に注力し、集中的に計画を実施した。需給国関係グループは、「グローバル・サプライチェーンとローカライゼーション：需要国側との対話」会議を 2017 年 11 月 7 日-8 日にパリで組織し、IFNEC に需給国関係に関する包括的な理解を提供した。執行委員会は、同会議の成功を評価し、また、グループの綱領に規定される議題に継続して取り組むべきだとする参加数か国による意見を評価する。

執行委員会は、今期において、幅広く有益な一連の活動を成し遂げた運営グループ議長、また、燃料供給サービス作業部会、基盤整備作業部会、アドホック・グループそれぞれの共同議長の業績を認める。執行委員会は、運営グループと作業部会の優れた活動を称え、参加国が特に重要と認めた問題の取り組みに対し、特に謝意を表す。執行委員会は、NEA が IFNEC の事務局として提供した支援について、特に感謝する。これに関して、執行委員会は、次の各位に対し深甚なる謝意を表す。

- NEA の IFNEC 事務局は、2017 年 6 月と 11 月の運営グループ会合、作業部会会合を成功裏に組織し、開催した。同じく同事務局は、IFNEC 参加国の意見に基づき、かつ、将来の方向性と戦略を踏まえた 2016 年の調査報告を実施した。また、NEA の事務局長ウィリアム・マグウッド氏は、IFNEC の活動に対して個人的にも尽力し、支援と教導の労を惜しまなかった。
- ルーマニア政府と基盤整備作業部会は、「資源と格差に係わるワークショップ」（核セキュリティに係わる企業側の視点、放射性廃棄物管理に対するステークホルダーの係わり）を共催した。
- エドワード・マクギネス氏の IFNEC 創設以来の特筆すべき教導。
- アラン・ブラウNSTAYN の燃料供給サービス作業部会に対するリーダーシップと貢献。

- フリアン・ガダノ氏の運営グループ議長の引き受け、IFNEC が新たに取り組むべき提案。
- 燃料供給サービス作業部会の共同議長シーン・タイソン氏、アドホック需給国関係グループ共同議長の進藤秀夫氏、ラファエル・グロッシ氏の新しいリーダーとしての意欲。
- 参加国は、自主的拠出金を提供することにより、IFNEC 事務局の円滑な運営を可能とし、作業部会共同議長に対しても、予算の範囲で多面的な分析、支援及び活動成果の提供を可能とした。参加国、オブザーバー国とオブザーバー機関は、IFNEC の活動に堅実に参加し、また同様な貢献として、執行委員会や他の会合を開催し、専門家をリーダー又は参加者として派遣し、あるいは、IFNEC の企画立案に時間とアイデアを提供した。

特に、執行委員会は、以下の事項について、その成果を認める。

- 基盤整備上の課題について、その基礎から長年にわたって携わり、原子力への新規参入国に解決策を提供した。
- 中・高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する多国間貯蔵の可能性及び技術性探求の継続的な取組

執行委員会は、IFNEC が優先的に取り組むべき活動を示すとともに、運営グループと作業部会が 2018 年に取り組むべき課題について、以下のとおり指針を示す。

- 運営グループは、その活動を調整して重複する活動を避け、作業部会間の相乗効果を高めるとともに、関係機関との連携を強化する。このため、作業部会間の TOR、事務局、更には IFNEC の運営形態や運営手続きを規定するアクション・プランの更新に努める。
- 執行委員会は、アドホックの需給国関係グループが TOR に示された課題に継続して取り組むため、その活動を翌年まで更新することを認める。
- 執行委員会は、燃料供給サービス作業部会の活動に進展があったことを認める。燃料供給サービス作業部会の共同議長は、執行委員会で示された参加国に資する核燃料サイクルのバックエンド問題に継続して注力し、参加国に有益な放射性廃棄物及び使用済燃料の管理問題に協力してアプローチする手法の探求に努めた。更に執行委員会は、同部会が引き続き多国間貯蔵構想及び各国の取り組むバックエンドにおけるデュアル・トラック・アプローチの発展に取り組むよう求める。燃料供給サービス作業部会は、2018年の重要なトピックを選定して、ワークショップや会議開催を検討することを推奨する。
- 基盤整備作業部会は、人材育成及び核規制など原子力に関する計画を安全かつ確実に実施するために必要な基盤整備を強化するため、重要な課題に取り組む必要がある。執行委員会は、基盤整備部会が、過去実施した核セキュリティ、原子炉の廃炉、損傷を受けた核施設の廃炉と修復、人材育成、ステークホルダー参加、小型原子炉、原子力安全及び緊急事態対応策の分野の業績を認める。執行委員会は、IAEA との協力を継続し、特に地域社会における原子力科学技術分野の議論や関心を高めようと努める世界の学生とプロジェクトを共催するよう奨励される。執行委員会は基盤整備部会が、新しい原子炉の技術に対して規制面のアプローチを取り扱う会合開催の試みを歓迎する。

- 燃料供給サービス作業部会、基盤整備作業部会及びアドホック需給国関係グループは、その活動にあたり、IAEA, OECD 及び OECD/NEA その他の適当な機関との協力を維持することが奨励される。
- 運営グループは、事務局の予算が任意的な拠出に負うという特性に鑑み、新規参加国への呼びかけを積極的に行い、IFNEC の活動を支える財政上の課題に応えることが奨励される。
- 運営グループは、作業部会の共同議長と協力して、原子力の国際協力に関わる重要なトピックを選定し、幅広くステークホルダーに係わるワークショップや会議を計画し開催することが奨励される。

執行委員会は、IFNEC 全参加国、オブザーバー国が 2018 年第 2/四半期に計画されている IFNEC の運営グループ会合、作業部会会合、更には 2018 年度第 4/四半期に予算承認を条件として日本で開催される執行委員会会合に積極的に、参加することを奨励する。